

トップに戻る

『ハーディ研究』 第38号 (2012年9月15日発行)

目次

西村智、「修辭的挑発としての自然—トマス・ハーディの現実観の一面—」
福原俊平、「動物との共感—トマス・ハーディの小説における動物愛護思想」
坂田薫子、「『微熱の人』と大英帝国—ポスト・コロニアル批評で読むトマス・ハーディ」
亀澤美由紀、「転覆させる十字—『森林地の人々』考察—」
鳥飼真人、「Jude the Obscure(d)—『ジュード』における真の悲劇」
YMAUCHI, Masaki, “Owen Graye’s Desperate Remedy”
SUZUKI, Jun, “Hardy’s Misogyny: Reading *Jude the Obscure* as his Response to New Woman Fiction”

『ハーディ研究』 第37号 (2011年9月15日発行)

目次

坂田薫子、「ハーディとカントリーハウス—ジェイン・オースティンとの比較を通して」
西村美保、「『エセルバータの手』における使用人の表象—文化的アプローチ」
土屋結城、「"We and the Rest of the Country"—*The Trumpet Major*におけるナショナリズム」
渡千鶴子、「詩に描かれた生き物・時・人間に関する「多様な読み」から垣間見るハーディ像」

『ハーディ研究』 第36号 (2010年9月15日発行)

目次

鈴木淳、「崩れる『帝国の母』—ニューウーマン作家とハーディー—」
金谷益道、「“A Faithful Artist” それとも “An Ironist” ?—ハーディとポストモダニズム」
野村京子、「『テス』におけるブラジル表象—破壊と再生—」
亀澤美由紀、「『日陰者ジュード』—リアリズムの裂け目」
Nagamatsu, Kyoko (永松京子), “Humour in *The Life of Thomas Hardy, 1840-1928*”

『ハーディ研究』 投稿規定

原稿締め切りは4月1日。

掲載の可否は編集委員会での審査により決定されます。論文の掲載に当たっては、

執筆者ひとり 10,000 円の負担をお願いしています。執筆者には『ハーディ研究』を 5 部進呈します。5 部を超えて必要な方には 1 部 1,000 円でお分けします。

執筆要領

1. 応募原稿は、ハーディに関する未発表原稿に限る。ただし、口頭発表はこの限りではない。
2. 英文の場合は、英文タイプ（パソコン）で A4 用紙 30 行/1 ページで 10 枚程度。和文の場合は、14,000 字程度に収めること。和文で執筆の際には、英文のレジюме（300 words 程度）を必ず付けること。応募原稿には、FD、USB メモリーなど、電子版の原稿を添付すること。
3. ドキュメンテーションは、*the MLA Handbook for Writers of Research Papers* (2009: トップページの「入り口」から入ってください)に準拠すること。
4. 引用の場合は、出典（Edition およびページ）を明記すること。
5. 応募原稿は完全原稿とし、校正時には字句の修正は最小限にとどめること。
6. 原稿の採否は、編集委員会の決定による。

原稿送付先

〒161-8601

東京都新宿区神楽坂 1-3

東京理科大学 1 号館 1603A 研究室

〔日本ハーディ協会事務局〕